

FLORA KANAGAWA

Sep. 18. 2019 No.87

神奈川県植物誌調査会ニュース第 87 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp



図1. 茎が赤く花被も桃色がかったイチヤクソウ種複合体. 背景の石の左下および左奥に見える葉も同じイチヤクソウ種複合体の別株と思われる. 丹沢鍋割山稜 2019年7月5日 草野延孝撮影.

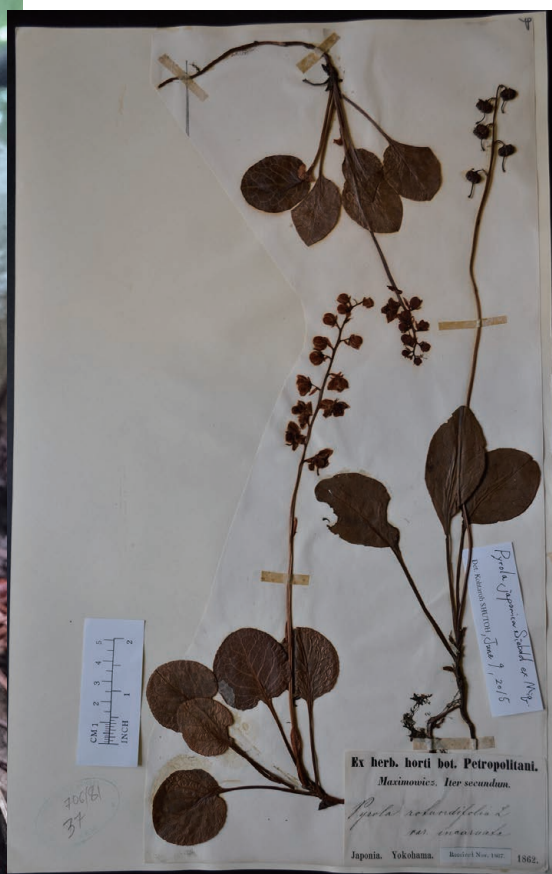


図2. マキシモヴィッチによるYOKOHAMAラベルのベニバナイチヤクソウ. シート左側の上下2点. 右側の1点は狭義イチヤクソウ. 英国キュー植物園 2015年6月9日 首藤光太郎撮影.

神奈川県内のベニバナ!? イチヤクソウ (大西 亘・首藤光太郎・城川四郎)

丹沢鍋割山荘の草野延孝氏より、淡桃色の花をつけた花茎が赤いイチヤクソウ属植物の写真が城川の元へ送られてきた(図1). ニホンジカの採

食圧が高く、林床植生が極端に貧弱な標高 900m 付近で花茎の上がついている個体を 1 株だけ見つめられたとのこと. これまで県内に記録がないとされていたベニバナイチヤクソウ *Pyrola incarnata* (DC.) Fisch. ex Freyn の貧弱個体のようにも見える

が、ベニバナイチヤクソウは花数が多く、葉基部がくさび形にならず、またシュート基部の鱗片葉が膜質という特徴がある。根茎でマット状に広がる特徴も確認できないことから、ベニバナイチヤクソウではなく、分類学的には、イチヤクソウ種複合体 *P. japonica* species complex に含まれるものと考えられる。

イチヤクソウ種複合体は、葉の面積および花茎の色に著しい変異を示す。首藤は、国内の同種複合体の形態と DNA を調査し、異なる形態をもついくつかの集団型に分けられることを 2016 年にアメリカ植物分類学会誌に発表した (Shutoh *et al.* 2016)。このうち花茎が赤く、普通葉をもたないか極端に小さな葉のみをもつものをヒトツバイイチヤクソウ *P. subaphylla* Maxim., 赤か緑の花茎と通常葉をもつものを狭義イチヤクソウ *P. japonica* Klenze ex Alef. と扱うことを日本植物分類学会誌で提案した (Shutoh *et al.* 2017)。写真のものは、赤い花茎と小型の葉をもつことからヒトツバイイチヤクソウか狭義イチヤクソウであると考えられるが、同種複合体が幅広い変異を示すためにヒトツバイイチヤクソウの同定には少なくとも 3 株が必要で、この写真からは同定できない。なお、赤い花茎をもつ狭義イチヤクソウには、しばしばオオベニバナイチヤクソウ *P. japonica* f. *rosiflora* H.Hara の名があげられることがある。しかし、原記載が簡素であり、タイプ標本から花茎の色を推測することも困難であることから、この学名を用いることが正しいかは明らかにできていない (Shutoh *et al.* 2017)。

今回標本は採取出来なかったが、花茎が赤いイチヤクソウ種複合体の生育について、ひとまず写真記録として報告する。提供を受けた写真の背景には花茎の上がない複数の個体があるように思われ (図 1, キャプション参照)、今回の記録地だけでなく広く県内の生育状況に注意しておきたい。

なお、これまで県内では記録がないとされていたベニバナイチヤクソウ *P. incarnata* (DC.) Fisch. ex Freyn について、首藤はマキシモヴィッチによる "YOKOHAMA" とラベルに記載された標本 1 シートがキュー植物園に収められていることを確認している (図 2)。ベニバナイチヤクソウの全国的な分布は北海道・本州中北部から東北地方の比較的冷涼な地域を中心としており (高橋, 1991)、マキシモヴィッチによる“本物の”ベニバナイチヤクソウが現在の横浜市域やその周辺に生育して

いたわけではなさそうだが、記録の存在に触れておく。

桃色のイチヤクソウを発見し、いち早くご連絡ただくとともに報告と写真の使用について快諾下さった草野氏に感謝申し上げます。

引用文献

Shutoh K., S. Kaneko, K. Suetsugu, Y.I. Naito & T. Kurosawa. 2016. Variation in vegetative morphology tracks the complex genetic diversification of the mycoheterotrophic species *Pyrola japonica* sensu lato. *Amer. J. Bot.* 103: 1618–1629.

Shutoh K., S. Kaneko & T. Kurosawa 2017. Taxonomy and distribution of *Pyrola subaphylla* Maxim. (Pyroleae, Ericaceae). *Acta Phytotax. Geobot.* 68: 181–192.

高橋英樹, 1991. 日本産イチヤクソウ類の分布と東北地方中南部欠落分布. *Acta Phytotax. Geobot.* 42:23–43.

クモランとヨウラクランを鎌倉で再確認

(鐵 慎太郎・八木正徳)

鎌倉市とその周辺は県東部における着生ランの主要な産地として知られてきた。神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) の記述、および S-Net (<http://science-net.kahaku.go.jp/>, 2019 年 5 月参照) での神奈川県立生命の星・地球博物館のデータ参照によると、鎌倉市では過去にヨウラクラン *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino, ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim., クモラン *Taeniophyllum glandulosum* Blume, カヤラン *Thrixspermum japonicum* (Miq.) Rchb. f., フウラン *Vanda falcata* (Thunb.) Beer, マツラン (ベニカヤラン) *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr. の 6 種の記録がある。しかし、クモランは 1961 年の大谷 茂氏による標本 (KPM-NA1001095) 採集の以降、採集標本および報告はない。ヨウラクランは隣接する横浜市で 1988 – 2000 年に採集され、鎌倉市でも 1956 年に採集された標本 (KPM-NA0000024) があるが、神奈川県植物誌 88 の調査以降では採集や報告がない。マツランは『神植目 33, 神植誌 58』で鎌倉が産地として挙げられているが、証拠標本は確認されていない。今回、筆者らは鎌倉市 (鎌倉 1) においてクモランとヨウラクランの生育を再確認したので報告する。なお、確認された個体数が僅少であったこと

から標本採集はせず、写真による記録にとどめた。

確認場所は鎌倉市内の一寺院で、調査日は2019年4月22日と4月29日である。クモランは境内のウメ3本とイブキ（ビャクシン）1本で、合計で約20個体の着生を確認した（図1, 2）。ただし、境内に植栽されている複数本のビャクシンの樹高



図1. ウメに着生するクモラン（鎌倉市2019年4月22日 鐵慎太郎撮影）。



図2. イブキに着生するクモラン（鎌倉市2019年4月22日 鐵慎太郎撮影）。

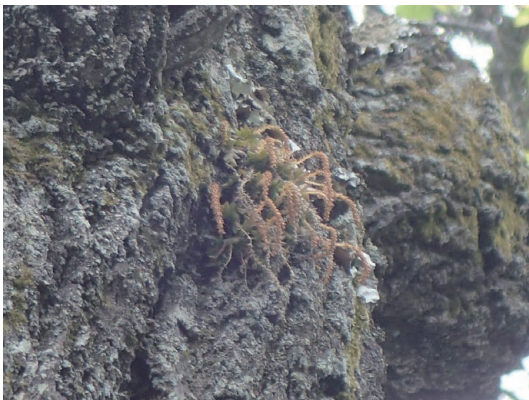


図3. ウメに着生するヨウラクラン. 複数の花序を付けている（鎌倉市2019年4月29日 八木正徳撮影）。

は10m前後あり、目視による調査には限界があったため、正確な個体数の把握はできなかった。裂開した果実を付けた個体もみられ生育は良好に思われた。ヨウラクランはウメ1本に2個体が着生していた（図3）。開花を確認したもののやや衰弱しているようにみえた。

本稿は神植誌88の調査以降では初となる、鎌倉市でのクモランとヨウラクランの分布報告である。ただし、生育地の寺院の関係者にお話を伺ったところ、クモランについては数名の方が既に存在を把握されており、以前から境内で生育していたとのことである。

神奈川県レッドデータブック2006（高桑他, 2006）において、クモランは絶滅危惧IA類、ヨウラクランは絶滅危惧II類に指定されている。また、冒頭で挙げたムギラン、カヤラン、フウランも県レッドデータブックの掲載種である。寺社の緑地は希少な植物種の生育場所の一つとして重要であるといえる。

本報告をまとめるにあたり、生育地の寺院の関係者の方々からお話を伺うとともに情報公開の許可をいただいた。この場をお借りしてお礼申し上げる。

引用文献

高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006. 442pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
神奈川県植物誌調査会編, 2018. 神奈川県植物誌2018 電子版 初版. 1802pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.

横浜のラショウモンカズラ

（田中徳久）

2019年3月、横浜市の真野知佳子さんから電話があった。近所にラショウモンカズラと思しきものがあるが、どうだろうか？ということであった。『神植誌18』によると、県の北西部を中心に分布するが、横浜では記録がない。念のため、『横浜植物誌』（出口, 1968）や『神奈川県植物目録』（松野編, 1933）、『神奈川県植物目録』（宮代, 1958）も確認したが神奈川県自体に記録がない。どうやら県内では『神植誌88』の調査時に記録されたもののようであった。あまり間違える植物ではないと思ったが、後日、写真を送っていただいた（図1）。確かにラショウモンカズラ *Meehania urticifolia* (Miq.) Makino であった。神奈川県全体の中でも、特に古くから植物が調べられている横浜において



図1. ラショウモンカズラ（横浜市港北区 2014年4月12日 真野知佳子撮影）。

の新産の在来の植物。正直驚いた。生育地の写真からは植栽ではなさそうであるが、人里近いことは確かであり、土地の方が植えられた可能性もなくはなさそうである。事実はどうであろう。横浜では非常に希少な植物であり、今後もその生育を見守っていききたい。10株ほどは生育するようになるので、自生にしる、植栽にしる、確実な記録のために標本も作製したいと思うのは、博物館学芸員のサガであろうか。

引用文献

出口長男, 1968. 横浜植物誌. 6+256pp., 44pls. 秀英出版, 横浜.

松野重太郎(編), 1933. 神奈川県植物目録. 5+111+23pp., 10pls. 神奈川県博物館調査会, 横浜.

宮代周輔, 1958. 神奈川県植物目録. 4+112+41pp. 自費出版.

神奈川県植物誌調査会(編), 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp. 神奈川県立博物館, 横浜.

神奈川県植物誌調査会編, 2018. 神奈川県植物誌 2018. xviii+1720+128pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.

アルビノのキンラン

(秋山幸也)

2019年の春は、相模原とその周辺地域の緑地でキンランとギンランの開花がととても多かった。相模原市立博物館の敷地内でも、咲かない年も多い気まぐれなギンランが、今年は8株開花した。相模原市中央区から南区にまたがって残された都市近郊緑地である「木もれびの森」でも、尋常ではない数のキンランが開花した。5月中旬のある日、この森の一面を手入れし、希少植物の監視



図1. キンランのアルビノ株（相模原市 2019年5月18日 秋山幸也撮影）。

をされている相模原植物調査会会員の田中早苗さん、野口正枝さん、松浦悦子さんから驚愕の情報をいただいた。それは、キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume のアルビノが開花したというものだ。そもそも植物のアルビノなんておかしな話で、葉緑素を持たずに成長できるのはなにかに寄生しているからだ。キンランは寄生植物でも菌従属栄養植物でもないが、菌根菌から栄養を得て発芽するのはよく知られている。それがもしや、成長、開花、結実まで菌根菌から栄養をかすめ取っているのか・・・などと想像すると興味が尽きない。ちなみに、アルビノ株については遊川(2015)で

も写真入りで紹介されている。

野口さんのご案内で教えていただいたアルビノ株(図1)は、妖しげに透ける白色に、しかし花は少し淡い黄色がかり、美しく咲いていた。周りのキンラン通常株が花期のピークを過ぎているのと比べると、少し開花期が遅いようだ。それが光合成をしない株の栄養成長とどのような関係があるのか・・来年はどんな株が生育するのか、楽しみに待ちたい。

引用文献

遊川知久, 2015. キンラン. 日本のランハンドブック①低地・低山編, 56-57p. 文一総合出版, 東京.

2016年7月～2019年3月 西湘シダ勉強会の調査活動

(中山博子)

2016年7月～2019年3月の期間に実施した西湘シダ勉強会の活動記録について報告する。

「西湘シダ勉強会」についてはFK79号p.931の記事を参照。本稿はFK82号p.986の活動記録に続くものである。

以下調査日の古いものから順に掲載、参加者は氏名の五十音順で初出時のほかは名字のみ、敬称略。

調査日：2016年7月19日 火曜日

調査地：MAN 真鶴町岩

参加者：伊藤晃逸・金子龍次・中山博子・日置乃武子・松岡輝宏・和田良子

コース：真鶴町岩沢橋～岩沢川に沿った林道を往復。

概要：ホソバノコギリシダ、アケボノシュスランなどを記録。

調査日：2016年8月16日 火曜日

調査地：YA-6・5 山北町中川 西丹沢自然教室先

参加者：金子龍次・近田あきこ・中山博子・日置乃武子・松岡輝宏・山崎厚・和田良子

コース：山北町

概要：フクオウソウ、ハコネハナヒリノキなどを記録

調査日：2016年9月7日 水曜日

調査地：小田原市久野 足柄久野林道

参加者：中山博子・松岡輝宏・和田良子

コース：小田原市足柄久野林道

概要：シダを中心に記録

調査日：2016年10月18日 火曜日

調査地：OD-4 小田原市根府川

参加者：伊藤晃逸・金子龍次・佐藤康・長岡恂・

中山博子・日置乃武子・松岡輝宏・山崎厚・和田良子

コース：小田原市根府川小田原城 CC 駐車場～白銀林道

概要：ハコネオトギリ、サクラガンビなどを記録

調査日：2016年10月28日 金曜日

調査地：小田原市久野 足柄久野林道

参加者：近田・中山・和田

コース：小田原市久野(宮城野ゲート～宮城野林道)

概要：オオゲジゲジシダ、イワニンジンなどを記録

調査日：2016年11月8日 火曜日

調査地：OD-1 久野 足柄久野林道

参加者：埜村恵美子・中山・和田

コース：足柄久野林道

概要：コミネカエデ、フジウツギなどを記録

調査日：2016年11月13日 日曜日

調査地：丹沢湖

参加者：埜村・中山

コース：A-6 玄倉丹沢湖畔・YA-7 神尾田三保ダム広場

概要：アケボノスミレなどを記録

調査日：2016年11月15日 火曜日

調査地：OD-4 小田原市根府川

参加者：伊藤・金子・中山・日置・松岡・山崎・和田

コース：小田原市根府川白銀林道～真鶴町岩棚下白銀林道

概要：ヒメクマツヅラなどを記録

調査日：2016年12月13日 火曜日

調査地：真鶴町

参加者：金子・佐藤・中山・松岡・山本・和田

コース：真鶴町尻掛海岸・高浦海岸

概要：ゲットウ、ツノアイアシなどを記録

調査日：2017年01月24日 火曜日

調査地：真鶴町・湯河原町

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・支倉千賀子・日置・松岡

コース：真鶴町荒井城址公園・湯河原町福浦

概要：スズコナリヒラダケなどのタケを中心に記録

調査日：2017年03月21日 火曜日

調査地：南足柄市矢倉沢

参加者：伊藤・金子・中山・埜村・松岡・和田

コース：南足柄市矢倉沢

概要：ネコノメソウ観察

調査日：2017年03月25日 土曜日

調査地：南足柄市・松田町・小田原市

参加者：伊藤・中山・埜村・深町・松岡・和田

コース：南足柄市矢倉沢・沼田・松田町松田庶子・小田原市府川

概要：ニッコウネコノメソウを記録

調査日：2017年04月14日 金曜日

調査地：箱根町

参加者：伊藤・佐藤・中山・松岡・和田

コース：箱根町須雲川・小田原市久野

概要：ニッコウネコノメソウなどを記録

調査日：2017年04月24日 月曜日

調査地：小田原市根府川

参加者：伊藤・金子・中山・松岡・和田

コース：小田原城 CC 付近

概要：コチャルメルソウ、ネコノメソウ類を記録

調査日：2017年05月16日 火曜日

調査地：小田原市根府川

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・浜岡史子・日置・松岡・和田

コース：小田原城 CC ～白銀林道

概要：ツルシロカネソウ、アオバスケなどを記録

調査日：2017年05月29日 月曜日

調査地：山北町神尾田・中川

参加者：中山・和田

コース：丹沢湖畔・白石沢ゲート付近

概要：ヤマウツボなどを記録

調査日：2017年06月20日 火曜日

調査地：小田原市根府川

参加者：伊藤・金子・長岡恂・中山・日置・松岡・山崎・和田

コース：小田原城 CC 付近

概要：キバナショウキランなどを記録

調査日：2017年07月18日 火曜日

調査地：真鶴町岩

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・浜岡・松岡

コース：真鶴町白銀林道～要沢無線中継所

概要：ナツノハナワラビなどを記録

調査日：2017年09月19日 火曜日

調査地：小田原市久野

参加者：金子・佐藤・中山・日置・埜村・松浦・和田

コース：小田原市水源の森 久野林道

概要：シュスラン、ヒキオコシなどを記録

調査日：2017年10月17日 火曜日

調査地：小田原市久野林道

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・和田

コース：小田原市久野林道～釜石林道

概要：アキザキヤツシロラン、ヌリワラビなどを記録

調査日：2017年11月21日 火曜日

調査地：小田原市足柄・久野林道

参加者：伊藤・金子・佐々木シゲ子・佐藤・中山・日置・松岡・山崎・和田

コース：小田原市久野林道～足柄久野林道太田橋・亥切沢

概要：白花のアズマヤマアザミなどを記録

調査日：2017年11月28日 火曜日

調査地：真鶴町・山北町

参加者：伊藤・岡武利・佐藤・中山・松岡

コース：真鶴町岩・山北町向原・箱根町湯本

概要：タマシダ、イワオオイトチシダ、オニヒカゲワラビ、イブキシダなどを記録

調査日：2017年10月17日 火曜日

調査地：南足柄市三竹

参加者：伊藤・金子・佐々木・佐藤・中山・松岡・和田

コース：南足柄市明星林道～三竹林道

概要：ホソコバカナワラビなどを記録

調査日：2018年01月16日 火曜日

調査地：小田原市久野 舟原

参加者：金子・佐藤・中山・松岡・和田

コース：小田原市久野 舟原 和留沢林道

概要：ウスバイシカグマ、コハシゴシダなどシダを記録

調査日：2018年02月20日 火曜日

調査地：小田原市小田原城

参加者：伊藤・金子・佐藤・日置・松岡

コース：小田原市小田原城～報徳神社

概要：マツバラシ、アカミヤドリギなどを記録

調査日：2018年03月20日 火曜日

調査地：小田原市久野 水窪

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・松岡

コース：小田原市久野林道～水窪

概要：ヤママメザクラ、マルババニシダなどを記録

調査日：2018年04月17日 火曜日

調査地：湯河原町

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・埜村・日置・和田

コース：湯河原町白銀林道～しとどの岩屋～白銀林道たつざわ橋

概要：シロバナハンショウヅル、ミタケトラノオなどを記録

調査日：2018年05月15日 火曜日

調査地：山北町三国峠

参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・日置・松岡・和田

コース：三国峠～三国山～明神峠
概要：アシガラノキシノブなどを記録
調査日：2018年06月19日 火曜日
調査地：小田原市根府川
参加者：伊藤・金子・中山・日置・松岡・和田
コース：小田原市根府川小田原城CCへの道
概要：アマギアマチャ、ヤマジオウなどを記録
調査日：2018年08月21日 火曜日
調査地：山北町三国峠
参加者：伊藤・金子・佐藤・長岡・中山・松岡・和田
コース：三国峠～鉄砲木ノ頭
概要：タチネズミガヤ、ケフシグロ、タチヒメワラビ、シロバナフジアザミなどを記録
調査日：2018年08月27日 月曜日
調査地：山北町三国峠
参加者：伊藤・中山・和田
コース：山北町三国峠～三国林道
概要：ヒナノキンチャク、サガミギクなどを記録
調査日：2018年09月18日 火曜日
調査地：山北町三国峠
参加者：伊藤・金子・佐藤・長岡・中山・埜村・日置・松岡・山崎・和田
コース：三国峠～鉄砲木ノ頭・三国林道
概要：ハンカイシオガマ、クマオシダなどを記録
調査日：2018年09月23日 日曜日
調査地：小田原市東町
参加者：伊藤・佐藤・中山・埜村・日置・松岡・和田
コース：小田原市山王海岸
概要：ハタガヤ、ハマエンドウ、ケカモノハシなどを記録
調査日：2018年10月16日 火曜日
調査地：小田原市久野
参加者：伊藤・金子・佐々木・佐藤・中山・松岡・山崎・和田
コース：小田原市久野 塔ノ峰林道
概要：ベニバナゲンノショウコ、フジオシダなどを記録
調査日：2018年11月20日 火曜日
調査地：小田原市根府川・米神
参加者：伊藤・金子・佐藤・中山・埜村・日置・和田
コース：小田原市根府川白銀林道～米神大畑林道
概要：シロバナイナモリソウなどを記録
調査日：2018年12月18日 火曜日
調査地：小田原市根府川・米神

参加者：伊藤・金子・佐々木・佐藤・中山・野林・松岡・山崎・山本絢子・和田
コース：米神 白銀林道（清水橋大畑林道分岐～水無林道）
概要：ミタケトラノオ、リョウトウイタチシダなどを記録
調査日：2019年01月15日 火曜日
調査地：湯河原町宮上
参加者：伊藤・岩切千代子・金子・佐々木・佐藤・中山・日置・松岡・山崎・和田
コース：湯河原町宮上オレンジライン
概要：ハナミョウガ、ハシゴシダなどを記録
調査日：2019年02月19日 火曜日
調査地：真鶴町岩
参加者：伊藤・金子・小林力・佐藤・中山・野林・埜村・松岡・山本・山崎・和田
コース：真鶴町岩龍門寺入口～岩沢川～石名坂
概要：アイトキワトラノオ、イヌケホシダなどを記録
調査日：2019年03月19日 火曜日
調査地：真鶴町岩沢川
参加者：伊藤・岩切・金子・小林・佐々木・佐藤・中山・埜村・松岡・和田
コース：真鶴町岩沢橋～岩沢川沿い～白銀林道
概要：ムカゴネコノメ、キジョランなどを記録

2016年4月～2016年11月 箱根やぶこぎ会の調査活動

(鹿野沙耶香)

2016年4月～2016年11月の期間に実施した箱根やぶこぎ会の活動記録について報告する。

「箱根やぶこぎ会」についてはFK81号p.974の記事を参照。

調査活動の報告はFK82号p.989の記事に続くものである。以下調査日の古いものから順に掲載、参加者は氏名の五十音順、敬称略で掲載し、初出時のほかは名字のみ記す。

調査日：2016年6月25日(土)

調査地：箱根町元箱根 HAK-4

参加者：勝山・山本・久江信雄、藤城

コース：駒ヶ岳～神山中腹～防ヶ沢～箱根園

概要：ヒコサンヒメシヤラ、ウスユキムグラ、オオイタヤメイゲツ、オオカモメヅル、オオバイケイソウ、ハコネグミ、マツブサ等25種を採取。

※FK82号に2016年6月27日(月)として報告されたものは、日付および参加者氏名について誤りがあり、上記内容が正しい。

調査日：2016年04月16日 土曜日

調査地：箱根町宮ノ下・小涌谷 HAK-6

参加者：井上香世子・鹿野沙耶香・清水和子ほか
コース：宮ノ下～小涌谷

概要：キクザキイチゲ、イヌザクラ、アオフタバラン、ヒメフタバランなど33点を採集

調査日：2016年07月17日 日曜日

調査地：箱根町仙石原・小涌谷 HAK-1,6

参加者：井上香世子・鹿野沙耶香ほか
コース：仙石原～小涌谷

概要：ホドイモ、ハコネシロカネソウ、ヤナギバヒメジョオン、ミヤコグサなど22点を採集

調査日：2016年08月28日 日曜日

調査地：箱根町小涌谷 HAK-1,6

参加者：井上香世子・松浦ヤチヨ
コース：鷹巣山の北方

概要：ハコネクサアジサイ、ニシキウツギなど9点を採集

調査日：2016年09月6日 火曜日

調査地：箱根町箱根・元箱根 HAK-2,3

参加者：石原和美・勝山輝男ほか
コース：芦ノ湖南西岸(白浜～百貫ノ鼻～真田浜)

概要：ヒメシロネ、アカバナ、ナメラツリフネソウ、イバラモ、シャクジョウソウなど29点を採集

調査日：2016年09月10日 土曜日

調査地：箱根町二ノ平・小涌谷 HAK-6

参加者：井上香世子・鹿野沙耶香ほか
コース：二ノ平～小涌谷

概要：トミスアトオトギリ、イヌショウマ、イヌビエ、コゴメヤナギなど20点を採集

調査日：2016年09月17日 土曜日

調査地：箱根町芦之湯・畑宿・元箱根 HAK-5

参加者：大西亘・勝山輝男・鹿野沙耶香ほか
コース：芦之湯～二子山～お玉が池

概要：ヒロハノハネガヤ、イワイタチシダ、ヤノネグサ、コバノカモメヅル、ヒメスイバなど19点を採集

調査日：2016年09月21日 水曜日

調査地：箱根町元箱根 HAK-4

参加者：藤城節子ほか
コース：駒ヶ岳

概要：マルバダケブキ、ミヤマニンジン、ホツツジ、コウモリソウなど12点を採集

調査日：2016年10月15日 土曜日

調査地：箱根町宮ノ下・宮城野 HAK-6

参加者：井上香世子・鹿野沙耶香・松浦ヤチヨほか
コース：早川溪谷沿い(宮ノ下～木賀～底倉～宮城野)

概要：ニシキフジウツギ、ハダカホオズキ、カントウヨメナ、ヒナガヤツリなど33点を採集

調査日：2016年10月18日 火曜日

調査地：箱根町元箱根 HAK-2

参加者：石原和美ほか
コース：三国山

概要：イヌハコネトリカブト、ヒゲシバなど10点を採集

調査日：2016年10月22日 土曜日

調査地：箱根町宮城野 HAK-6

参加者：勝山輝男・鹿野沙耶香ほか
コース：宮城野

概要：ミヤマヤシャブシ、タチコゴメグサ、ヒメアシボソなど8点を採集

調査日：2016年10月29日 土曜日

調査地：箱根町仙石原 HAK-1

参加者：井上香世子・佐々木あや子ほか
コース：仙石原

概要：アカメヤナギ、カワヤナギ、コバノイシカグマ、ヒキオコシなど14点を採集

調査日：2016年11月2日 水曜日

調査地：箱根町元箱根・芦之湯 HAK-4

参加者：藤城節子ほか
コース：精進池～阿字ヶ池

概要：エゾシロネ、アオコウガイゼキショウ、オオクサキビ、ウスアカカタバミなど32点を採集

調査日：2016年11月12日 土曜日

調査地：箱根町湯本 HAK-5

参加者：井上香世子・鹿野沙耶香ほか
コース：湯本

概要：タマサンゴ、ノシラン、ハリフタバモドキ、マテバシイ、オノマンネングサなど32点を採集

調査日：2016年11月14日 月曜日

調査地：箱根町湯本 HAK-6

参加者：高橋一公ほか
コース：湯本

概要：ホウライシダを採集

※箱根地域では、自然公園法に基づく環境省の採集許可を得て採集を実施しました(調査会会員であっても許可のない者の採集はできません)。

『神奈川県植物誌 2018』とYListの和名の対照表

(須貝光咲・木場英久)

2001年の神奈川県植物誌ではタチカモジグサと表記していたものを、著者のひとり木場は今回の植物誌では「グサ」を省いてタチカモジとした。これは、YListで使われている和名を使うのが、のちのち便利であろうと思ったからである。YListとは、ご存知の方も多いと思うが、米倉浩司さん(東北大学)と梶田忠さん(東京大学(現・琉球大学))によってWeb上で公開されている和名や学名などのリストで(<http://ylist.info/index.html>), 図鑑や植物目録などによく引用されている(たとえば改訂新版の『日本の野生植物』など)。

著者のもうひとり須貝は、今年度、桜美林大の木場研究室で卒業研究として、神奈川県産の普通種の採集を行う予定である。その準備として新しい植物誌を1ページずつめくって普通種を選び出す作業を行ったが、その過程で植物誌の見出しの和名(以下、植物誌名)とYListで標準とされる和名(以下、Y和名)が異なっているケースがあることに気づき、リストアップをした。

両者で和名が一致しなかった場合の多くでは、植物誌でも、YListでも、相手の名前を別名としてあげてあった(たとえばコヒメビエとワセビエ)。こういう場合にはYListを植物誌名で検索するとY和名がヒットするし、植物誌の索引は別名でも引けるので、手間をかければたどり着けないことはない。しかし、たとえば植物誌名トキワシノブは、Y和名ではシマシノブモドキで、どちらにも別名の記述がないので、同じ実体のことを示しているのを知るには学名だけが頼りである。

和名に不一致があるとこんな不便がある。和名不一致のリストは著者らがこっそり持っているだけではもったいない。せつかつなら神奈川県植物誌を使うみんなですった方がよいと思って、ここに紹介することにした。

以下は著者らが気づいたものだけであるが、五十音順に並べた植物誌名に続けて、Y和名を括弧に入れて表記した。他の図鑑などに植物誌の和名が出てこなかったら、括弧の中の和名のところも見てもらえると役に立つと思う。

アカメヤナギ(マルバヤナギ)
アキワギク(アキハギク)
アメリカゴウカン(ハイクサネム)

アラゲアオダモ(ケアオダモ)
アレチカミツレ(キヅメカミツレ)
イ(イグサ)
イヌイワヘゴ(イワヘゴとイヌイワヘゴを区別していない)
ウナギツカミ(ウナギツカミとアキノウナギツカミを区別していない)
エゾアオイスミレ(エゾノアオイスミレ)
エンシュウベニシダ(オオマルバベニシダ)
オオアラセイトウ(ショカツサイ)
オオカナワラビ(カナワラビ)
オオカラスノエンドウ(オオヤハズエンドウ)
オオバノキハダ(オオバキハダ)
オランダゼリ(パセリ)
オランダミツバ(セロリ)
カクトラノオ(ハナトラノオ)
カタバヤブマオ(マルバヤブマオ)
カミヤマシロヨメナ(キントキシロヨメナ)
カントウカンアオイ(カンアオイ)
キダチコマツナギ(トウコマツナギ)
キヌガサギク(アラゲハンゴンソウ)
キバナガンクビソウ(ガンクビソウ)
クロヒロハノイヌノヒゲ(クロヒロハノイヌノヒゲとヒロハノイヌノヒゲを区別していない)
クロベ(ネズコ)
コイトスゲ(ゴンゲンスゲ)
コシロノセンダングサ(シロノセンダングサ)
コバナヤマモモソウ(イヌヤマモモソウ)
コバノタツナミ(コバノタツナミソウ)
コヒメビエ(ワセビエ)
ゴマギ(ゴマキ)
ザラツキエノコロ(ザラツキエノコログサ)
シソバタツナミソウ(シソバタツナミ)
シュユ(イヌゴシュユ)
スズダケ(スズタケ)
セイヨウノコギリソウモドキ(ノコギリソウモドキ)
タイアザミ(トネアザミ)
チャ(チャノキ)
トキワシノブ(シマシノブモドキ)
トゲナシサルトリイバラ(トキワサルトリイバラ)
トヨオカザサ(アオネザサ)
ナガボハナタデ(ホソバハナタデ)
ニセジュズネノキ(オオアリドオシ)
ニョイスミレ(ツボスミレ)
ハコネオトギリ(コオトギリ)
ハゴロモモ(フサジュンサイ)
ハマグルマ(ネコノシタ)

バラモンギク (キバナムギナデシコ)
 ヒメクマツヅラ (ハマクマツヅラ)
 ヒメリュウキンカ (キクザキリュウキンカ)
 ヒロハウシノケグサ (ヒロハノウシノケグサ)
 ヒロハノマンテマ (アケボノセンノウ)
 ヒロハレンリソウ (ヒロハノレンリソウ)
 フガクスズムシ (フガクスズムシソウ)
 フクロナデシコ (サクラマンテマ)
 ホザキノカワラニンジン (ホザキカワラニンジン)
 ホザキマンテマ (マンテマモドキ)
 ホザキモウズイカ (アレチモウズイカ)
 ホシケチドメグサ (ホシゲチドメグサ)
 ホソバコガク (アマギアマチャ)
 ホソバツルリンドウ (ホソバノツルリンドウ)
 ミヤマタゴボウ (ギンレイカ)
 ムカゴネコノメ (ムカゴネコノメソウ)
 ムシカリ (オオカメノキ)
 ムツオレガヤツリ (キングヤツリ)
 メニッコウシダ (ケヒメシダ)
 モトゲイタヤ (モトゲイタヤとイトマキイタヤを
 区別していない)
 モミジタマブキ (ミヤマコウモリソウ)
 ヤマキタダケ (ヒメスズタケ)
 ユウゲショウ (アカバナユウゲショウ)
 ユモトヤムミ (カントウヤムミ)
 ヨーロッパタイトゴメ (オウシュウマンネングサ)
 リュウキュウハゼ (ハゼノキ)



図1. ミヤマニガウリ. TNS100006. 1945年10月7日.
 葉山(大円院)奥山春季採集, no.6055. 右下が科博
 ラベルで、「相模 葉山」とある. 左下はオリジナルラ
 ベルで「葉山(大円院 800 m)」と記されている.

葉山のミヤマニガウリと採集記の重要性 (大西 亘)

植物誌も刊行されたある日、田中徳久さんが「こんな標本があったよ」と"ウリ科"執筆者の私へのお土産として一枚の標本写真を見せて下さった(図1)。国立科学博物館(TNS)収蔵のミヤマニガウリ標本である。ラベルを見ると奥山春季氏が1945年10月7日に採集されたものとあり、国立科学博物館の名が入ったラベルには「相模 葉山」とある。ミヤマニガウリ *Schizopepon bryoniifolius* Maxim. は北海道～本州に広く分布し、本州中部から東北地方の山地では比較的目にする機会があるものの、これまで県内には『箱根植物目録』(松浦, 1958)に記載があるのみで、標本は確認されていない。

単純に考えれば新記録としたいところだが、ミヤマニガウリの生育地はその名の通り深い山の森林であり、近隣都県でも稀な植物である。数十年

前とは言え、県内で葉山町だけに生育していたとはにはわかには信じがたい。どうしたものかと思ったが、奥山春季氏の採集記録は『奥山春季植物採集記録抄』(奥山, 1991)にまとめられているのでひとまず参照してみることにした。すると、1945年から山形県に疎開していた奥山氏は1945年10月7～8日に山形県の葉山(出羽山地の山名、標高1462m。現在の村山市と寒河江市の境界に位置する)に出かけていたとあった。つまり、ラベルの「葉山」とは神奈川県葉山町ではなかったのである。

ここで標本に添付されているオリジナルラベル(採集者の奥山氏本人によるとと思われるもの)を改めて見ると、「相模」の文字はなく、「葉山」の文字に続いて、カッコ内に詳細地名と思われる文字と"800m"標高値が読み取れる。山形県の葉山と分かった後で見ると、詳細地名はどうやら当時葉山山中にあった寺院"大円院"のことであり、標高800mも大円院と一致する。また、ラベルにある奥山氏の標本番号"no.6055"は奥山(1991)に明記されていないが、記述のある採集標本番号と一連のものである。

科博のラベルについては、「葉山」の地名を見て

「神奈川県」と思い込んでしまった先人がいたということであろう。他山の石として心得たい。今回の件は同時に、標本ラベル以外で参照できる採集記録の存在が、後年記録を扱う者にとって重要となることをあらためて認識する機会となった。なお、収蔵済標本への情報追記は、既存のラベルへ記入するのではなく、追記履歴が分かるようアンテーションの形で添付すべきことを付記しておく。

余談だが、奥山氏がミヤマニガウリを採集した大円院（山形県寒河江市畑）は、採集翌年の1946年にGHQによって演習場の着弾地として接収され、当時あった寺院が失われただけでなく、以降10年間にわたって立入禁止となった（Wikipedia.jp）。神奈川県産ではなかったが、実際の採集地でも貴重な時期の記録と言えるかもしれない。

引用文献

松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 4+1+2+90+2+25pp. 箱根博物館, 箱根.

奥山春季 (編), 1991 奥山春季植物採集記録抄. 2+1+142pp. 奥山春季植物採集記録抄刊行会, 千葉.

Wikipedia.jp, 葉山 (村山市). 2019年8月15日参照. url: [https://ja.wikipedia.org/wiki/葉山_\(村山市\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/葉山_(村山市))

『植物誌 2018』ができるまで

(事務局)

会員のみなさんに、『植物誌 2018』が出来上がるまでのもろもろの活動を振り返り、生の声をお寄せいただくことをお願いした。調査の準備や日々の標本整理活動、ブロックそれぞれの課題など、『植物誌』の本冊に残らない活動の実態が次世代に伝えられればと考えている。

各調査ブロックごとに今号から何回かに分けて掲載の予定。初回は川崎ブロックと相模原ブロックからお寄せいただいた。

.....

『神奈川県植物誌 2018』ができるまでを振り返る

(川崎ブロック)

川崎ブロックは、特定非営利活動法人 かわさき自然調査団の、種子植物班およびシダ植物班の皆さんを中心に活動している。神奈川県植物誌 2018 刊行までの活動を振り返った。

<種子植物班>

人手不足のため、手分けして作業に当たった。完成、刊行の喜びを分かち合いながら、植物誌 2018 を活用していきたい。

○採集担当 (佐藤登・吉留)

・川崎の植物標本の充実を目指して、川崎市内全域で採集した。

・多摩川河口、多摩丘陵と環境の変化が大きく、それぞれの植物に接することで、その観察とともに、植物名を覚えることに楽しみを感じた。

・採集品の自宅乾燥に当たっては、毎日の新聞交換が大変だった。

・同定や貼付がしやすいように、標本としての形を整えて押すように努力した。

・ガマやアザミ等は乾燥中も成長するので、綿毛が部屋中に飛んで苦労した。

・採集、乾燥の過程で繰り返し植物を見、観察するため、良い勉強になった。

○標本作成担当 (佐藤ミ・白澤・矢澤)

・ラミネーションテープを貼る場所、角度、量は腕の見せどころであった。

・標本を作りながら、じっくり観察することが出来るので、良い勉強になった。

○収蔵庫整理担当 (武久・谷口・林・田渕)

・新しい標本が増えたので、楽しく整理している。

・いろいろな標本に会えて楽しかった。

○同定担当 (吉田)

・同定の鍵になる部位 (花・葉・毛のあるところ) が採集されているとは限らないため、名前を導き出し、たどり着くのに苦労した標本もあって、力不足を痛感した。野外でも細部まで観察する習慣が身に付き、非常に勉強になった。



種子植物班のみなさん。

<シダ植物班>

- ・シダの芽立ちの愛らしさ、力強さからの成長の変化を、楽しく観察することが出来た。(岩片)
- ・「シダ班も歩けばシダに当たる」と言いながら仲間と歩き、丘陵地や谷戸はもちろん、市街地などでも逞しく生きているシダ植物を見つけるのは、楽しい活動だった。こうして植物誌 2018 としてまとめられ、採集したひとつひとつの標本が分布図の点となり、証拠標本として、これからも永く活用されるであろう事は、この上ない喜びである。(大貫)
- ・川崎市内のシダ植物を求めて数十年がたった。出歩くたびに新しい種に出会い、楽しみながら採集を続けた。川崎市も都市化が進み、シダ植物も公園等の残された場所でしか見ることができなくなってきているのが残念である。植栽の木の間にも、多くのシダ植物が生えているのも新しい発見だった。(島津)
- ・川崎南部の埋立地の多い地区ではシダはほとんどないだろうと思っていたが、アスカイノデ、オクマワラビ、ホウライシダなど見つけて喜んだ。(園田)
- ・川崎市内を調査、採集したので、少し川崎市民らしくなれた。たくさんシダが見つかるところは歩いても気持ちがいい。採集したシダは重いし、標本作成には手間がかかったが、楽しかった。道路がアスファルトで、水路も暗きよになっていると「何も生えてない…」と思いきや、雨水ますの中に希少なシダが見つかったりして、驚いた。(田村)
- ・今回は、2回目で少しは成長したのか？(長谷川)
- ・シダ植物の葉の裏側を見る驚き、長い年月、よくぞ現代まで生き続けた強靱な生命の仕組みに感嘆する。(林)



シダ植物班のみなさん

<標本収蔵機関・かわさき宙(そら)と緑の科学館(川崎市青少年科学館)>

私が当館に配属されたのは、2012年4月、ちょうど調査会が新しい植物誌に向けて動き出した頃だった。標本すら作ったことなかった私は、まさに植物誌刊行に向けての活動を通して、博物館職員として育てていただいたのだと思う。かわさき自然調査団の種子植物班、シダ植物班の皆さんはもちろんのこと、事務局や執筆者、会員の皆さんには大変お世話になった。この場をお借りして、深謝申し上げる。そして、植物誌刊行とともに、当館収蔵になる植物標本の充実がある。実は「神奈川県植物誌 2001」の刊行後、当館は標本の整理や保管に関して、危機的状況にあった時期がある。その状況下であって、整理、保管作業を続けてくださったのが、上記、二班の皆さんであった。大変なご尽力のおかげで、新しい植物誌への協力も無事に果たすことができた。標本の収集保管事業は、自然史博物館の根幹をなす活動のひとつである。市民にとって重要な財産となる自然史資料(標本)を将来世代に遺していくために、それら事業の体制をいっそう確立させ、維持継承していくことが川崎市の責務であることを、植物誌 2018 刊行への過程において、強く実感した。(堀内)

・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

『神奈川県植物誌 2018』に参加して (相模原ブロック)

2019年初夏、相模原ブロックのみなさんに相模原市立博物館の実習実験室へ集まいただきました。調査や日常の標本整理作業などに従事して下さっている当事者として『神奈川県植物誌 2018』の完成にあたり感想など伺うためです。

相模原ブロックは、調査活動のみならず、より広く植物を愛好する方が気軽に参加できるように、相模原植物調査会の名称で博物館の専門ボランティアグループとして活動しています。そのため、調査会の非会員で日常のマウント作業などに従事して下さっている方も含めて集まいただきました。

——まず、調査活動の中で思い出深い出来事などあれば教えて下さい。

「オキナグサの調査では、道志川をジャブジャブ渡って対岸へ行きましたね。イワカラマツの時は泳いで渡りました。溪流釣りの経験があったのが良かった。」

「相模原の調査と言えば、今やヤマビルを抜きに語れませんね。他の地域の人たちからすると、とんでもない場所を歩き回っていると思われるみたいです。」

「奥野林道や黍殻山はひどかったね。ちょっと立ち止まるとわらわらと集まってきて、休憩もできない。」

「でも対処の仕方を心得てきてからは被害も少なくなった。慣れちゃうものだね。」

「調査しながらいろいろな動物にも出会ったね。サル、カモシカ、シカ・・・一度、ヤブの中で同行の人がとなりをやけにガサガサ走ってるなどと思ったら、その人はとっくにヤブから出ていた。今考えるとあればイノシシだったんだろうな。鉢合わせしなくてよかったです。」

「Mさんが職務質問されたって言ってましたね。そりゃあ、畑の周りを雑草みたいなものを掴みながら鋭い目つきでウロウロしていたら怪しいよね。」

「ハチに襲撃されたこともあった。古いトイレの上にハチの巣があったのに気付かず入っちゃった。あのときは病院に担ぎ込まれる騒ぎになって大変だった。」

「それでも、厳しい地形の場所をたくさん抱えている地域なのに、大きな事故が無かったのは良かったです。」

——今回の調査で採集した中で印象に残ったものは？

「一人で相模原市緑区のスギ林を歩いていて、リョウメンシダかな？と思って持ち帰り、宮崎卓さんに見ていただきました。それがなんと、シノブカグマでした。身近なところで大きな発見があって驚きました。」

「シダ類はそういうことが多くあったね。野外調査会で、たまたま山道の途中でこのシダなんだろう？と触って見ていたら、先を歩いていた宮崎さんが振り向いた瞬間に“ウスヒメワラビじゃないですか！”と叫んだ。あっけないくらいのタイミングで大発見があるものだなと思いました。」

「ムヨウランやキンセイランなど、これまで県内で見られなかったものが発見できました。最近ではイワヤシダも加わって、改めておもしろい地域だなと感じました。」

「調査を始めた頃には見られなかったり、ほとんど気付かれていなかったりしたものが急激に増えていますね。セリバヒエンソウ、オオキンケイギク、アメリカオニアザミ、ナガミヒナゲシなど。」

——相模原ブロックとしてここは自慢できる、という点をあげてください。

「市町合併に伴う新市域調査を、2006年頃から始めていました。県内で合併した唯一の自治体だったけど、その難関は十分に乗り切れたと思います。その流れと勢いを2018年版の調査につなげられたのが良かったです。新たに集めた標本数でも群を抜いているのではないのでしょうか。」

「資料調査員として相模原市立博物館に在籍されていた宮崎卓さんの指導の功績が大きかったと思います。宮崎さんの教を請いに野外調査会へ参加していましたから。」

「調査の裏方として、データの揺らぎ（表記のブレなど）をチェックして、他地区に負けない精度でデータの洗い出しができたと考えています。データからメッシュごとに標本の有無を割り出して、県全体の調査よりずっと早くから穴埋め調査も始めることができました。」

「標本閲覧に来られた執筆者の何人かから、相模原の標本は仕上がりコンディションがとても良いと褒められて嬉しかったです。菅澤桂子さんにご指導いただいたおかげですね。」

「2001年版以前は標本の少ない地域でしたが、地元の方がメンバーに加わって下さり、細かい山道などに熟知されていたのでくまなく調査できたと思います。2001年版以前の市域標本は多くが県博に入っていたので、ここで地元の標本庫にたくさん入れられたのが良かったです。」

——それでは最後に、調査を続けてきた感想や今後の展望をお願いします。

「丹沢の標本が相模原市立博物館標本庫にあまり入っていないので、今後は調査計画を立てて採集していきたいですね。」

「今後もまだある空白メッシュを埋めたり、未採集種を減らしたりしていく調査を続けたいです。」

「調査を続けてこられたのは、家族の理解も大きかったですね。初めは、普通の人からすればゴミみたいなものを大量に集めてくるので嫌がられました。でも、植物誌に向けていろいろな報告書や論文などの成果が形になってくると、理解して応援してくれるようになりました。2018年版はその集大成のようなものですね。」

「調査でなければ一生行くことがなかっただろうというような場所へも行かれたし、いろいろな経験ができました。何より、こうして植物を通じた仲間ができたのが良かったです。」

—ありがとうございました。みなさんの地道な活動が『神奈川県植物誌 2018』として形になったのは本当に良かったです。今日参加されていない方もたくさんいらっしゃいますが、その点はみなさんの思いが一致しているはずです。これからも長く楽しく調査活動を続けていきましょう。

2019年6月12日 相模原市立博物館実習実験室にて

参加者 亀崎誠、川崎香代、川村悦子、菅沼広美、
田中良也、三樹和博、宮崎精励
(まとめ) 秋山幸也



相模原ブロックのみなさん 2019年6月12日撮影。

かわさき宙(そら)と緑の科学館での『神奈川県植物誌 2018』関連展示が開催されました

(事務局)

FK86号でお知らせしました通り、かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館)にて「かわさきの植物～市民とともに調べて、記録した30年・『神奈川県植物誌 2018』ができるまで～」が2019年3月21日(木・祝)～4月14日(日)の会期で開催されました。

事務局の大西は、3月18日に標本閲覧を兼ねてお邪魔しました。その時のスナップの中から展示の様子をご紹介します。



川崎のシダ植物の紹介パネル。これまでのシダ班の活動で集められたものだから、こちらの足元にも鉢植えが。



入り口から青々としたシダがお出迎え。シダ班のメンバーが、「こんなこともあろうかと」ストックしていたものだそうです。



美しく迫力のある花の写真は、科学館・生田緑地の常連の方から提供いただいた作品とのこと。

今後の『神奈川県植物誌 2018』関連展示の予定

(事務局)

『神奈川県植物誌 2018』と当会の活動を紹介する展示は県内の博物館等でまだまだ続きます。現

在予定されているものは以下の通りです。展示へのご協力も引き続きよろしくお願い致します。

「横浜植物会展・『神奈川県植物誌2018』と横浜植物会」

会期：2019年9月1日(日)～9月29日(日)

会場：こども植物園展示室

横浜市南区六ツ川 3-122

TEL: 045-741-1015

「あつぎの草木、花めぐり『神奈川県植物誌2018の成果をひもとく』(仮)」

会期：2019年11月23日(土)～12月28日(土)

会場：あつぎ郷土博物館

厚木市下川入 1366 番地 4

TEL: 046-225-2515

厚木市と周辺地域の植物誌調査とその成果について紹介します！

「新しい神奈川県植物誌と湘南の花」

会期：2019年10月3日(木)～10月29日(火)

会場：平塚市博物館 1階 特別展示室

平塚市浅間町 12-41 TEL: 0463-33-5111

2018年に発行された最新の神奈川県植物誌と、その調査で明らかになったことを紹介します。

「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」

会期:2019年12月7日(土)～2020年2月16日(日)

会場：横須賀市自然・人文博物館

横須賀市深田台 95

TEL: 046-824-3688

「調べてきた！集めてきた！茅ヶ崎の植物と神奈川県植物誌2018(仮)」

会期：2019年10月8日(火)～12月8日(日)

会場：茅ヶ崎市文化資料館 1階 展示室

茅ヶ崎市中海岸 2-2-18 TEL: 0467-85-1733

「『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから」

会期:2019年12月7日(土)～2020年2月16日(日)

会場：県立秦野ビジターセンター

秦野市堀山下 1513

TEL: 0463-87-9300

「植物誌の世界～『神奈川県植物誌2018』の活用～」

会期：2019年10月19日(土)～12月14日(土)

会場：日本大学生物資源科学部 3号館(博物館)

3階イベントホール

藤沢市亀井野 1866 TEL: 0466-84-3800

※開館時間や休館日については、各施設にお問い合わせ下さい。

2019 年度総会の報告

(事務局)

2019年4月13日(土)、本年1月に開館したばかりのあつぎ郷土博物館で神奈川県植物誌調査会2019年度役員会・総会が開催されました。『神奈川県植物誌2018』刊行後初の総会として桜吹雪の舞う好天の中、多くの会員にお集まりいただきました。以下、総会の内容について報告させていただきます。

シヤジクモ類の調査にご協力ください！

(大西 亘)

現在、約15年ぶりに神奈川県レッドデータブックの再編が進められています。今回新たに大型淡水藻類（肉眼で単体が視認できる大きさの淡水藻類）を評価対象として含めることになりましたが、藻類はこれまで植物誌でも調査対象とされてこなかったため、分布についての情報が不足しています。ただ

し、大型淡水藻類に含まれるシャジクモ類は正確な同定は難しいものの、「シャジクモ類であることは分かりやすい」ので、水辺の観察をしていたり、水草等を調査する方はしばしば目にしてきたことと思います。そこで、調査会会員みなさんに、身近なフィールドのシャジクモ類調査にご協力いただきたく考えています。

田んぼや池などでシャジクモ類を見つけたら、軽く汚れやゴミを除いてそのままジップロックなどのチャック付きポリ袋に入れ、いつ・どこで・誰が採集したか、の採集情報を添えて、県博・大西宛にお送りいただけませんか。県博では、保存処理をして保存し、シャジクモの研究者のご協力を得て同定確認後、県レッドリスト/レッドデータブックに反映させます。目標は各市町村(政令市は区単位)に何らかのシャジクモ類少なくとも1種の記録があるとよいと考えています。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

調査に適した時期： 8月～9月

見つけやすい場所： キクモなどが生えている落水前の水田や水草の多い池。



手順1) 採集したシャジクモ類は水を張ったバットやバケツ、洗面器などに入れて、そっと広げ、何度か水を換えて汚れやゴミを取り除く。シャジクモはちぎれやすいので、強くこすったり、流水を直接当てたりするのはNG。



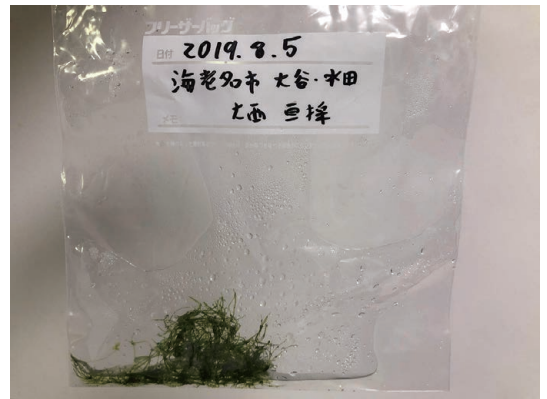
シャジクモ類の標準的な形態。棒状の大きな細胞が節で繋がった姿をしている。褐色の粒状の部分は卵胞子もしくは生殖器(卵生器/造精器)。



手順2) 汚れが取れてきた状態。シャジクモが壊れないように注意しながら、もう少し底に沈む汚れやゴミを流す。



水田に生育するシャジクモ類のようす。中央から左にかけての水の中に見える緑色のモシヤモシヤしたものがシャジクモ類。



手順3) 濡れたままジップロックなどに入れる。シャジクモがつぶれない程度に空気は抜く。採集年月日・採集地名・採集者名はラベルのほか、袋に直接記入してあるとなおよい(エタノールで消えないよう注意)。

目次

大西 亘・首藤光太郎・城川四郎：神奈川県内のベニバナ!? イチャクソウ	1027
鐵 慎太郎・八木正徳：クモランとヨウラクランを鎌倉で再確認	1028
田中徳久：横浜のラショウモンカズラ	1029
秋山幸也：アルビノのキンラン	1030
中山博子：2016年7月～2019年3月 西湘シダ勉強会の調査活動	1031
鹿野沙耶香：2016年4月～2016年11月 箱根やぶこぎ会の調査活動	1033
須貝光咲・木場英久：『神奈川県植物誌 2018』と YList の和名の対照表	1035
大西 亘：葉山のミヤマニガウリと採集記の重要性	1036
事務局：『植物誌 2018』ができるまで	1037
川崎ブロック：『神奈川県植物誌 2018』ができるまでを振り返る	1037
相模原ブロック：『神奈川県植物誌 2018』に参加して	1038
事務局：かわさき宙（そら）と緑の科学館で『神奈川県植物誌 2018』関連展示が開 催されました	1040
事務局：今後の『神奈川県植物誌 2018』関連展示の予定	1040
事務局：2019年度総会の報告	1041
大西 亘：シャジクモ類の調査にご協力ください！	1044
編集後記	1046



手順4) ジップロックを閉じる前にエタノールスプレーがあれば、10回くらい吹きかけておくと、保存性がよい（葉緑素の緑色が溶け出すが、識別のための標本としては問題ない）。



手順5) 封筒に入れて、県博・大西宛（調査会事務局と同じ住所）に郵送。プチプチなどの緩衝材があると万全。普通郵便で可。発送の旨、大西宛ご一報いただけるとありがたい。

なお、シャジクモ類をより詳しく知りたい方には、『しゃじくもフィールドガイド』という冊子が、国立研究開発法人国立環境研究所微生物系統保存施設（NIES コレクション）のホームページで公開されています。

日本産のシャジクモ類 — しゃじくもフィールド
ガイド

http://mcc.nies.go.jp/Chara2006/chara_fieldguide.htm

編集後記

新しい植物誌も刊行され、創立40年という節目でもあるタイミングの今春、勝山輝男さんと交代で石田祐子さんが事務局に加わりました。私は田中徳久さんから FLORA KANAGAWA 編集のバトンを受け取りました。会員のみなさまのお力添えを得て、楽しい紙面を繋いでいきたいと考えています。原稿はみなさんが頼りです。引き続きどうぞよろしく願いいたします。（大西 亘）

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円